生産設備の全面的な更新で省力化と生産性向上を同立

特殊材や大断面材への対応力も更に強化

(株)東京木材相互市場



木材の市場内に所在する㈱東京木材相互市場プレカット事業部

関東エリアを中心に木材市場の運営や木材流 通・木材直販を行う一方、材木店・販売店経由で 工務店向けに木造住宅のプレカット材の供給や設 計業務なども手がけている(㈱東京木材相互市場 (東京都練馬区、西村信洋社長)は、今年3月にプレカッ ト事業部の生産設備を全面的に更新した。

同社は昭和27年に東京都板橋区で木材の市売市場として創業。その後の昭和時代には都内北部を皮切りに、埼玉県、千葉県、栃木県、茨城県などの関東エリアの主要都市に市場や木材センターを開場し、事業を拡大させてきた。同社がプレカット事業に参入したのは、プレカットが成長期にある平成7年からで、相互吹上市場(昭和50年に開場)内にシステム流通事業部(プレカット部門)を開設するとともに、木材倉庫の一部をプレカット工場に改装し、同5月から稼働をスタートさせた。また、それと同時に会員制でプレカッ

ト加工と構造計算サービスを行う「オレンヂシステム」を展開している。その後、平成20年には金物工法の対応を開始し、平成31年3月にはプレカットの生産設備を全面リニューアルさせ現在に至っている。

設備の刷新で生産環境を合理化

同社の相互吹上市場は1万400㎡の敷地を有しており、その中でプレカット事業部は市場の倉庫を改装した第一工場(1944㎡)と第二工場(1944㎡)の2棟でプレカットを行っている。第一工場には横架材加工機と合板加工機、第二工場には柱材加工機と2台の羽柄材加工機、合板加工機が設置されている。

今回更新した加工機は、いずれも宮川工機㈱製で、 横架材加工機「MPS-VX05」および大断面加工機 「MPS-55」、柱材加工機「MPS-34」および「MPS-